

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00952

研究課題名(和文)河内国金剛寺文書に基づく中世地域社会史の研究

研究課題名(英文)A Study of Medieval Local Social History Based on Documents from Kongoji Temple in Kawachi Province

研究代表者

川合 康(KAWAI, Yasushi)

大阪大学・大学院人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、日本学専攻)・教授

研究者番号：40195037

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文):本研究は、河内国金剛寺に伝わる中世文書を精査することを通して、平安時代末期～鎌倉時代中期、鎌倉時代後期～南北朝内乱期前半、南北朝内乱期後半～戦国時代、寺内法と武家権力、金剛寺院主職と貴族社会という観点から、寺内・地域社会の実態と中央権力との関係を考察したものである。では、河内国金剛寺が八条院の高野山信仰を背景に成立し、その後も女院や鎌倉幕府・仁和寺・摂関家などを密接な関係を結んで成長していくこと、では、金剛寺が興福寺大乘院門跡と結んで寺領の回復を図っていたこと、では、周辺の国人層と利害を共有する若衆・子院が金剛寺内で自立化していくこと、などを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、金剛寺に伝わる膨大な中世文書を調査・撮影し、平安時代末期から戦国時代にいたる金剛寺の様相を、地域社会や中央の公武政権、権門寺院との関係に注目して明らかにしたものである。中世を通じ大量に存在する金剛寺文書の特性に基づき、寺院史や地域史、政治史などの個別分野の枠をこえ、在地寺院の視点から、総合的・通時的に中世の地域社会を考察した。本研究の成果は学界でも注目され、『鎌倉遺文研究』50号は「金剛寺文書の世界」という特集を組み、5本の論文が掲載された。また、本研究で撮影した文書は、学界未紹介文書47点を含め546点にのぼり、今後の研究に資するため河内長野市立図書館で文書画像の公開を始めている。

研究成果の概要(英文): This study examines the actual situation of the temple and local community and its relationship with central authority from the following five perspectives through a close examination of medieval documents handed down at Kongoji in Kawachi Province.  
I. Late Heian to mid Kamakura periods, II. Late Kamakura to early Nanbokucho period, III. late Nanbokucho period to Sengoku period, IV. temple internal law and military power, and V. Kongoji headship and aristocratic society. In I, it was revealed that Kongoji in Kawachi was established against the background of Hachijoin's belief in Koyasan, and that it continued to grow through close relationships with Nyoin, the Kamakura-bakufu, Ninnaji, and the Sekkanke. In II, we learned that Kongoji was trying to recover its temple domain through a tie-up with the Daijyoin Monzeki of Kofukuji. In III, we clarified that the young priests and sub-temples, who shared interests with the surrounding local lords, became independent within Kongoji.

研究分野：日本史

キーワード：金剛寺文書 長野荘 阿観 八条院 白炭免 仁和寺 大乘院門跡 光厳院

## 1. 研究開始当初の背景

(1)大阪府河内長野市に所在する天野山金剛寺は、2017年に国宝に指定された大日如来坐像・不動明王坐像・降三世明王坐像の金堂三尊をはじめ、建築・彫刻・絵画・工芸・古典籍など、数多くの貴重な文化財を保有している。古文書・古記録類についても膨大な量の中世・近世文書や聖教などを伝え、戦前から黒板勝美・三成重敬らに注目され、代表的な中世・近世文書467点が、1920年に東京帝国大学文学部史料編纂掛編『大日本古文書 家わけ第七 金剛寺文書』として刊行された。また、南北朝時代の金剛寺学頭禅恵を中心とする聖教類奥書の約300点が、1935年に『大阪府史蹟名勝天然紀念物調査報告書 第六輯 天野行宮金剛寺古記』として刊行されており、金剛寺文書は戦前から学術的価値の高い文書群として広く知られていた。戦後も、1975年に河内長野市が中世の金剛寺文書と聖教類奥書を収録した『河内長野市史 第五巻 史料編二』を刊行している。

(2)こうして金剛寺文書は早くから学界にその存在と重要性が知られていたが、これらの文書群を正面に据えて分析・検討を行った歴史学研究は、実は意外なほど少ない。研究代表者の川合康は、1990年に「河内国金剛寺の寺辺領形成とその政治的諸関係」(『ヒストリア』126号)を発表したが、少なくともその段階までは、金剛寺の成立を平安時代末期の阿観らによる草創であったことを明言する研究はなく、行基草創伝承が研究者にも受け入れられていたのである。その後、川合の研究を踏まえて、1997年に堀内和明が「南北朝内乱と河内国金剛寺の政治的様態」(『ヒストリア』155号)、2003年に研究分担者の市沢哲が「鎌倉後期の金剛寺」(『ヒストリア』187号)、2012年に堀内和明が『河内金剛寺の中世的世界』(和泉書院)を発表し、中世前期における金剛寺の展開過程や、それと関わる南河内地域の政治史が具体的に論じられるようになった。これらの研究は、金剛寺文書の豊かな内容に導かれて、中世寺院史研究のみならず、中世の地域社会論や政治史研究にも興味深い知見をもたらしており、金剛寺周辺の南河内地域が、中世を通じて地域社会の動向を追うことができる稀有なフィールドであることを示したのである。

(3)本研究は、以上のような研究動向を前提として、それを平安時代末期から戦国時代にいたる中世全般を視野に入れて発展させようとするものであるが、従来の研究で大きな問題と感じられたのは、金剛寺文書原本の観察・検討が十分になされてこなかった点である。本研究では、金剛寺座主堀智真氏の内諾を得て、金剛寺の中世文書の原本調査を行うこととし、これまで詳しく観察されることがなかった紙継ぎ目の裏花押などにも注目して、平安時代末期から戦国時代にいたる金剛寺と南河内・和泉の地域社会、さらに中央の貴族社会や武家権力、権門寺院との関係について追究することとした。

(4)金剛寺文書の画像については、河内長野市が市史編纂のため1969～75年に撮影した画像が河内長野市立図書館において公開され、また東京大学史料編纂所が1981年に撮影した写真帳が東京大学史料編纂所で公開されているが、いずれも白黒で不鮮明な箇所が多く、研究を進展させるうえでは、高精密のカラーデジタル撮影が不可欠である。本研究は、原文書調査と並行して、専門業者による文書撮影を行うこととし、その画像は、広く今後の研究に資するために、関係諸機関と協議のうえ河内長野市立図書館において公開することとした。

## 2. 研究の目的

(1)近年の金剛寺所蔵資料の調査は、主に仏教学や国文・漢文学、美術史の分野の研究者によって進められてきた。主な成果をあげれば、落合俊典氏を研究代表者とする2000～2002年度、2003～2006年度の科学研究費補助金による金剛寺一切経と仏典・聖教の基礎的調査、後藤昭雄氏を研究代表者とする2007～2010年度、2011～2014年度の科学研究費補助金による金剛寺所蔵典籍・聖教の集約的調査などがあり、2007年に『金剛寺一切経の総合的研究と金剛寺聖教の基礎的研究 第一分冊・第二分冊』(平成16～18年度科学研究費補助金基盤研究(A)研究成果報告書、研究代表者落合俊典)、2015年には『金剛寺経蔵聖教目録 第一分冊・第二分冊』(平成23～26年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書、研究代表者後藤昭雄)が刊行された。以上の調査・研究に基づいて、2017・2018年には、貴重な古典籍の学術的利用を目的として、『天野山金剛寺善本叢刊』(勉誠出版)第一期・第二期の計5冊が刊行されている。

(2)以上のように、金剛寺所蔵の聖教類や古典籍などについては、仏教学や国文・漢文学の研究者によって精力的に調査・研究が進められてきたが、日本中世史の研究者による古文書の調査・研究については、戦後、河内長野市史編纂事業を除いてはこれまでほとんどなされてきていない。しかし、前述したように、金剛寺文書は中世の地方寺院の在り方や南河内の地域社会の実態を探るうえで、きわめて重要な史料群であり、研究代表者の川合康と研究分担者の市沢哲が、2000年の大阪狭山市史中世部会による文書調査に参加した際に、中世にさかのぼる「金剛寺結縁過去帳」を見出したように、『大日本古文書』や『河内長野市史』に翻刻されていない中世文書も数多く存在すると推測される。本研究は、金剛寺に所蔵される約350点ののぼると予想される中世文書(天正年間まで)の原本を可能な限り調査し、記録することが第一の目的であり、専門業者による原文書の高精密カラーデジタル撮影も、その一環である。

(3)そのうえで本研究では、平安時代末期～鎌倉時代中期、鎌倉時代後期～南北朝内乱期前半、南北朝内乱期後半～戦国時代、という三段階の時期に区分して金剛寺文書を詳しく検討し、寺内だけではなく、それと密接な関わりをもつ河内の地域社会の動向を通時的に解明する。また、金剛寺文書の特徴を踏まえて、寺内法と武家権力、金剛寺院主職と貴族社会、という研究視角も設定し、寺内・地域社会と中央権力との関係について考察する。本研究の独創性は、金剛寺文書の研究を中世仏教史・寺院史という狭い枠にとどめず、むしろ政治史的観点を重視して、地域社会論や中世政治史研究にまで広げ、従来の中世史理解に新たな知見を加えようとする点である。

### 3. 研究の方法

(1)以上のような研究目的のもと、本研究では、研究代表者・分担者・協力者の全員で、1年に2回、9月と11月に1泊2日の合宿形式で、金剛寺客殿において中世文書の原本調査を実施するとともに、専門業者による古文書の高精密カラーデジタル撮影に立ち会うこととした。また、合宿1日目の夜には、宿泊先において金剛寺文書研究会を開催し、金剛寺文書の検討を共同で進めることとした。

(2)～の研究課題については、共同研究参加者の専門性を考慮しておおよその分担を決め、それぞれ研究を進めた。研究代表者の川合康は、研究全体の統括と の段階を担当し、平安時代末期～鎌倉時代中期における金剛寺文書の分析を進め、八条院祈願所金剛寺の成立を、女院の高野山信仰を背景に、阿観と長野荘下司源貞弘、八条院女房大式局の三者の連携から検討した。また研究分担者の下村周太郎は、 の段階の金剛寺を支えた貴族社会の構成員を明らかにするために、金剛寺に所蔵される聖教類紙背文書の翻刻を進めるとともに、その内容を詳細に検討した。

(3)次に の段階である鎌倉時代後期～南北朝内乱期前半については、研究分担者の高橋典幸と市沢哲、研究協力者の永野弘明が、金剛寺寺辺領の白炭免をめぐる相論や、和泉国和田荘をめぐる相論を詳しく解明することによって、金剛寺と中央の公武権力、南都の権門寺社との関係について分析を進めた。

(4) の段階である南北朝内乱期後半～戦国時代については、研究協力者の田村亨が、文和3年(正平9、1354)に始まる北朝三上皇と南朝の後村上天皇の金剛寺滞在について検討し、金剛寺に滞在した「天野殿」(光厳院)の京都の北朝に対する影響力について考察した。また室町・戦国時代では、研究協力者の永野弘明と北山航が、金剛寺文書から子院や若衆による土地集積や寺領経営の実態、さらには寺内法の性格などを検討することによって、金剛寺内部における学頭・三綱と若衆・子院の分裂状況を考察し、それぞれの勢力と室町幕府・守護や周辺地域の国人領主層との関係を解明した。

(5) 寺内法と武家権力、金剛寺院主職と貴族社会という研究視角は、～それぞれの研究のなかで十分に留意することとしたが、特に の貴族社会との関係については、研究分担者の栗山圭子が、 の段階を対象として、金剛寺院主や寺僧と親密な人脈をもつ坊門家や仁和寺、嘉陽門院、撰関家の動向を詳細に分析した。

(6)以上のような～の研究分担のほか、研究協力者の永山愛が、近代以降における金剛寺文書の調査の実態と経過を、付箋など原文書に残る調査の痕跡に基づいて考察した。

### 4. 研究成果

(1)本研究が調査した金剛寺所蔵の中世文書(一部近世文書も含む)は、350点という予想をこえて546点にのぼり、『大日本古文書 家わけ第七 金剛寺文書』『河内長野市史 第五巻 史料編二』のどちらにも収載されていない学界未紹介文書は47点に及んだ。本研究では、これらすべての文書について高精密のカラーデジタル撮影を行い、端裏書や裏花押も撮影したため、カット数は967カットにのぼった。

(2)本研究において調査・撮影の対象とすることができなかった学界未紹介の中世文書が、これまでの調査の過程で170点以上存在することを確認した。今後も、継続的な調査が必要であることが明らかとなった。

(3)本研究で調査・撮影を行った文書は、研究代表者の川合康が「調査・撮影文書目録」を作成し、年度末に刊行した『河内国金剛寺文書に基づく中世地域社会の研究(JSPS 科研費 19K00952) 研究成果報告書』に掲載した。目録には、今後の活用の便を考えて、画像番号とともに、『大日本古文書』『河内長野市史』の文書番号を記載し、備考には原文書の保存状態などについて書き込んだ。

(4)本研究で撮影した文書画像は、すでに河内長野市立図書館内の「古文書画像閲覧システム」において一般公開を始めている。本画像の公開は、鎌田和栄「古文書めぐり 河内長野市立図書館での古文書等歴史的資料公開について」(『古文書研究』94号、2022年)などでも紹介され、市民や研究者が金剛寺文書閲覧のために同館を訪れており、本研究の成果の一部が社会に還元されている。

(5)2021年に堺市博物館で開催された「重要文化財指定記念 和田文書の世界 鎌倉～南北朝期の和泉・河内」展では、本研究で撮影した金剛寺文書の画像が図録に使用されており、地域における文化普及・啓発に貢献した。

(6)本研究の成果は学界でも注目されることとなり、『鎌倉遺文研究』50号(2022年)が「金剛寺文書の世界」の特集を組み、川合康「八条院祈願所金剛寺の成立と春秋二季伝法会の始行」、栗山圭子「鎌倉前期における河内国金剛寺と本寺仁和寺」、永野弘明「鎌倉前中期の河内国金剛寺と寺辺領 所領経営をめぐる女院女房と地域社会」、高橋典幸「金剛寺寺辺領白炭免の基礎的考察」、市沢哲「和泉国和田荘相論と金剛寺院主 中世裁判の一断章」の5本の論文が掲載された。これらの論文は、 〃 の段階の金剛寺と周辺の地域社会を、 〃 の視角から検討した成果である。

(7)年度末に刊行した『河内国金剛寺文書に基づく中世地域社会の研究 (JSPS 科研費 19K00952) 研究成果報告書』には、 〃 の時期をあつかう川合・高橋・市沢・栗山の論考のほか、田村亨「「天野殿」光厳院と河内国金剛寺」、永野弘明「中世後期の金剛寺寺辺にかんする試論 地方寺院の子院による土地売買と寺領経営」、北山航「室町期における河内国金剛寺の動向」、永山愛「金剛寺文書の成巻・整理・調査について 近代以降における調査を中心にして」、下村周太郎「金剛寺所蔵『梵網経古迹記』紙背文書の紹介 建保三・四年頭弁二条定高の周辺」を掲載した。これらは、 〃 の段階の金剛寺と周辺の地域社会を 〃 の視角から検討した論文や、近代以降の金剛寺文書の調査の歴史を検討した論文、学界未紹介の紙背文書の翻刻・解説を行った論文であり、重要な成果を示すことができたと考える。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 川合康	4. 巻 50
2. 論文標題 八条院祈願所金剛寺の成立と春秋二季伝法会の始行	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鎌倉遺文研究	6. 最初と最後の頁 2-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市澤哲	4. 巻 50
2. 論文標題 和泉国和田荘相論と金剛寺院主 中世裁判の一断章	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鎌倉遺文研究	6. 最初と最後の頁 94-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋典幸	4. 巻 50
2. 論文標題 金剛寺寺辺領白炭免の基礎的考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鎌倉遺文研究	6. 最初と最後の頁 72-93
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 栗山圭子	4. 巻 50
2. 論文標題 鎌倉前期における河内国金剛寺と本寺仁和寺	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鎌倉遺文研究	6. 最初と最後の頁 27-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永野弘明	4. 巻 50
2. 論文標題 鎌倉前中期の河内国金剛寺と寺辺領 所領経営をめぐる女院女房と地域社会	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鎌倉遺文研究	6. 最初と最後の頁 48-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 川合康
2. 発表標題 「女人高野」金剛寺の成立と河内長野
3. 学会等名 大阪狭山市歴史文化セミナー (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川合康
2. 発表標題 金剛寺草創期 1 源平合戦と金剛寺
3. 学会等名 第 5 回女人高野 天野山金剛寺ヴェーダ講座 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川合康
2. 発表標題 金剛寺草創期 2 八条女院と金剛寺
3. 学会等名 第 6 回女人高野 天野山金剛寺ヴェーダ講座 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 市澤哲
2. 発表標題 鎌倉後期の金剛寺
3. 学会等名 第7回女人高野 天野山金剛寺ヴェーダ講座
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 市澤哲
2. 発表標題 鎌倉末期の金剛寺
3. 学会等名 第8回女人高野 天野山金剛寺ヴェーダ講座
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田村亨
2. 発表標題 「天野殿」光嚴院と河内国金剛寺
3. 学会等名 第4回大阪大学豊中地区研究交流会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 川合康・高橋典幸・栗山圭子・市澤哲・田村亨・永野弘明・北山航・永山愛・下村周太郎	4. 発行年 2023年
2. 出版社 大阪大学	5. 総ページ数 180
3. 書名 河内国金剛寺文書に基づく中世地域社会の研究 (JSPS科研費19K00952) 研究成果報告書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	市澤 哲 (ICHIZAWA Tetsu) (30251862)	神戸大学・人文学研究科・教授  (14501)	
研究分担者	高橋 典幸 (TAKAHASHI Noriyuki) (10292799)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授  (12601)	
研究分担者	下村 周太郎 (SHIMOMURA Shutaro) (40581822)	早稲田大学・文学学術院・准教授  (32689)	
研究分担者	栗山 圭子 (KURIYAMA Keiko) (40755732)	神戸女学院大学・文学部・准教授  (34510)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	永野 弘明 (NAGANO Hiroaki)	大阪大谷大学・文学部・非常勤講師  (34414)	
研究協力者	永山 愛 (NAGAYAMA Ai)		
研究協力者	田村 亨 (TAMURA Toru)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	北山 航  (KITAYAMA Wataru)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関